

# さきがける 科学人

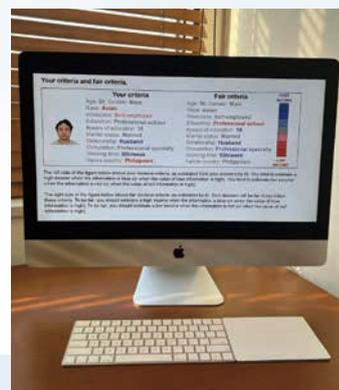
vol.116

馬場 雪乃 Baba Yukino

筑波大学 システム情報系 准教授

## Profile

東京都出身。2012年東京大学大学院情報理工学系研究科創造情報学専攻修了。博士(情報理工学)。国立情報学研究所特任助教、京都大学大学院情報学研究所助教などを経て、18年より現職。16~19年ACT-I研究者、19年よりさきがけ研究者。



機械学習を用いて、公平な人物評価の方法を人間に教えるツールを開発しています。

## Q1. どんなことに興味がありましたか？

### A1. 小学生からプログラミングに関心 中学生では「2ちゃんねる」に夢中

父親がエンジニアだったので、幼少期から家にコンピューターがある環境で育ちました。小学生の頃からプログラミングに関心を持ち、図書館で調べながら自分でゲームを作って遊んでいるような子どもでした。中学生になるとインターネットが普及し始めたことでますますコンピューターに没頭し、特に匿名で見知らぬ人と手軽にコミュニケーションが取れる「2ちゃんねる」に夢中になりました。

現実の世界では、社会的に地位のある人の発言に影響を受けやすいという認知のゆがみが発生しがちですが、匿名という環境下ではこのバイアスが排除されやすくなります。しかしインターネット上でも、人は多数派の意見に誘導されてしまうというケースがよくあります。こうした現象から認知バイアスに興味を持つようになり、研究対象として向き合い始めました。人が意思決定をする場面に機械学習が積極的に関わることで、ゆがみのない真の判断ができるのではないかと考え、さまざまな角度からアプローチを続けています。

## Q2. 認知のゆがみを是正するには？

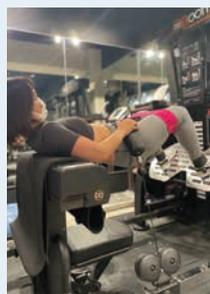
### A2. 他者に対して想像力を働かせ その場で判断をしないこと

認知のゆがみは、誰にでも起こる現象です。固定観念にとらわれない多様な考え方をもち、自分の価値観が全てではないことを認め、他者に対して想像力を働

かせること。そして、その場ですぐに結論づけようとしないうことがゆがみのない判断には重要です。

例えば「人事評価」は、属人性が高くゆがみが生じやすい業務の1つです。人種や性別に対する無意識のバイアスは、不公平な判断につながりやすくなります。機械学習を利用して評価者の判断を補正できれば、埋もれていた人材の発掘や適材適所に人を配置することが可能になるかもしれません。こうした研究は認知科学の専門家と進めていくことで、より具体性のある内容に高めていけるのではないかと考えています。

また今後は、行動変容を機械学習でサポートできる仕組みづくりにも取り組んでいきたいと思っています。人は頭ではわかっているのに、衝動的な行動を止めることができない生き物です。ダイエット中に



研究をやり遂げるには心身ともにタフである必要があると思います。定期的にトレーニングをしています。

「甘いものを食べちゃダメだ…」と書いていても、つい食べてしまう。そんな行動を抑制する仕組みにも、機械学習を効果的に取り入れていきたいです。

「認知のゆがみ」をなくしたい  
機械学習で評価をフラットに

## Q3. これから研究者を目指す人に一言

### A3. あらゆるアンテナを張り巡らせ 独自の感性を磨き上げよう

「こういう技術がかっこいい」「こんな考え方が面白い」といった独自の感性を持っている人は研究者としても魅力的で、他の人がたどり着けない境地まで行けると感じます。感性が育まれる若いうちに、いろいろなことに興味を持ち、あらゆるアンテナを張り巡らせ、知識の引き出しを増やしておくことが大切だと思います。

新型コロナウイルス感染症というこれまでにない経験の中で、新しい技術や考え方も生まれています。いいなと感じたことは積極的に取り入れ、私自身も感性を磨き上げながら、時代の

流れを先取りするような研究にチャレンジしていきたいです。

(TEXT:  
JST広報課  
小倉一恵)

